

豊明希望チャペル礼拝

2026/3/22

「ふさわしい礼拝」

ローマ人への手紙 12:1

今日は、ローマ人への手紙の 12 章の冒頭の一節だけを読みました。今一度読みます。

「12:1 ですから、兄弟たち、私は神のあわれみによって、あなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げなさい。それこそ、あなたがたにふさわしい礼拝です。」

読んでわかるように、「礼拝」について言っているようですね・・・今日の礼拝プログラムの説教題に「ふさわしい礼拝」としましたが、ふさわしい礼拝とは何かという内容になるわけです。

毎月第四週に開いてきたローマ人への手紙ですが、11 章までと、12 章からでは、まったく感じの違う内容となってきます。

11 章までは、いわば、論理篇です。聖書の内容を論理的な説明した内容となります。大きくは、三つ、一つは福音について（1～5 章まで）、そして、二つ目は、聖化について（6～8 章）、律法（9～11 章）についてです。12 章からは、クリスチャンの生き方の問題を具体的に教える内容となっています。1～11 の論理、原理に従って、いかに生きたらいいかを教える内容という言い方も出来るかと思えます。

ですから具体的です。12 章の、最初は、この後はすぐに、教会員として生きる生き方。次に愛の本質について語り、それから、13 章に入ると、この世の政治、国家、為政者たちに、どのような間合いを保って生きるかということ。14 章に入ると、何を食べたらいいか、酒は飲んでいいのか・・・そんな具体的な内容に入っていくわけです。



【リーズナブル】

× reasonable

○ reasonably priced

そういうわけで、今日は、「礼拝」について、あるいは「ふさわしい礼拝」についてです。

いきなりですが、みなさん、少し難しい言葉ですが、「リーズナブル」って言葉、知っていますか？これは、リーズナブルラグです、それは、一口に言って、「安いじゅうたんです」という意味です。

英語でこの聖書の箇所が訳されるとき、「リーズナブル・サービス」と訳されます(キングジェームスなど)。安い礼拝という意味になるのでしょうか。ややこしいですが、

こうしたコマーシャルに使うときは、リーズナブルと、本来は言うてはならないのであって、リーズナブリー、あるいはリーズナブリープライスと言わなくちゃいけない、間違った使い方だという事になりますが、本来のリーズナブルブルというのは、理にかなったとか、妥当なという意味で、リーズナブルブルプライスは、妥当な値段と

いう意味になります。安いという意味ではないのです。

それで、日本語に訳すとき、正しい礼拝と訳せばいいのですが、昔から、この日本語訳は、霊的な礼拝と訳してきました。リーズナブルを霊的と訳してはさすがにまずいという事で、2017 訳では、ふさわしい礼拝と変えたのです。



私は、今でも、礼拝の前に、奉仕者の祈りの時、今日も、「霊的な礼拝」を献げさせて下さいと祈るのですが、それは、ほぼ習慣になっておりまして、ある日、それが、霊的などという意味がないことを知って愕然としました。しかし、同時に、礼拝というのは、霊的と言うより、何か、神秘的なというような意味ではなく、きわめて理にかなっていることなだと、むしろ教えられたのです。これだけ良いじゅうたんが、この値段で買えれば、まことにお得だ、リーズナブルだというような意味で、礼拝は、私たちの生活にとって、まことに理にかなった習慣だ、むしろ、このローマ人への手紙の並びから言ったら、礼拝は、すべての**信仰生活の要**(かなめ)であって、秘訣なのだと、いや、信仰生活というばかりではなく、人生そのものを良くする、**理にかなった習慣**なのだと思い直したのです。なぜなら、神は、人を礼拝する者として創ったからです。

創造の初めに、神は人に、最初の命令として、この地を支配せよと言われました。そういう意味では、人は、この地を支配、管理する者であることが、人が創られた意味となります。しかし、その前提として、この神からの命令を聞く者として、神の前に立たされたという事では、正しくは、神を神として認め、御言葉を聞き、神に応答する存在、すなわち、神を礼拝する者として創られたという答えになると思います。

そして、それ(礼拝)は、理にかなった習慣として、人間の最初ところで、定められたと言うことです。リーズナブルと言いましたが、大胆に言えば、**礼拝は、人生にとって、お得だ**ということなのです。

人生に、悩んだら、まずは礼拝しなはれ(いきなり関西弁ですが・・・)。家庭がうまくいかなくなったら、まずは礼拝しなはれ。病気になったら、まずは礼拝しなはれ。一週間のはじめを、まずは礼拝に行きなはれ。人生うまくいかなくなったら、まずは、礼拝しなはれ。(『高尾山に登りなはれ』の借用「パチンコにお金使うくらいなら高尾山にのぼりなはれ・・・居酒屋いくお金で高尾山にのぼりなはれ」)

歌にしようかな・・・礼拝こそ、人生を生きる上で、もっとも理にかなっている。秘訣であり、理にかなった習慣だと心得たいということです。

さて、今日、お知られるべき結論を先に、お話ししましたが、あらためて、今日の箇所を今一度読みます。

「12:1 ですから、兄弟たち、私は神のあわれみによって、あなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げなさい。それこそ、あなたがたにふさわしい礼拝です。」

最初に言いましたように、12章からはじまる、クリスチャンが日々の生活をいかに送るか、教会では、国との関係、たとえば日本国民としては、人を許すことについて、何を食べ飲むかについて・・・など、日々の営みのはじめに、パウロは、まずは、こういう言い方で、まるで、自分で経験して良かったら、私も良い思いをしたから、結果がよかったから、お勧めしたいと、じゅうたんの宣伝ではありませんが、まるで、何かを売り込むように、セールスマンが、是非お勧めしますというがごとく、こういう言い方をします。

「兄弟たち、私は神のあわれみによって、あなたがたに勧めます。」

そして、それは、一言でいって「礼拝」です。是非、一週間のはじめに礼拝して下さい。礼拝から始めて下さい。ただし、この言い方は、すでに、礼拝の本質に迫る言い方をしています。それは、礼拝、礼拝と言っても、形だけ守ればよいという話ではないということです。ふさわしい礼拝、理にかなった礼拝を守れとっています。

また、こういう言い方をしています。

そして、それは、「喜ばれる」「聖なる」そして、「生きた」献げ物(者)をささげる礼拝だということです。

喜ばれるの主語は神です。第一には、あなたが(私が)喜ぶ礼拝ではありません。

次に、第二に、聖なる礼拝です。俗なる礼拝であってはなりません。たとえば、語られる説教は、当然ですが、必ず聖書から語られなければなりません。牧師の自慢話でも、主張であってはならないのです。聞きたくない話であっても、聞かなければならない、語らなければならぬということです。神の聖さに基づいた礼拝であるべきだと言うことです。

そして、最後に、生きた礼拝だと言うことです。この意味は、すでに、日曜日とか集会での礼拝という意味を超えていると思います。

私たちの生き方そのものが、礼拝そのものであることを意味しているような言い方です。

日曜日の礼拝毎に、たとえば、献金し、賛美をする、すなわち、お金を献げる、歌を献げるというかいう、そういう狭い意味ではなくて、言わば、礼拝から始まる一週間、すなわち、月曜日も、火曜日も・・・すべての生活、生き方そのものを神に献げていくような歩み、それこそが礼拝だと言っているようです。

少し、極端な例かもしれませんが、ああ、なるほど、それが、聖なる生きた献げ物、

すなわち、自分自身をまるごと神に献げる、それは献げ方であり、礼拝の本質だと思ったことでもあります。

栄聖書教会の全海石(チョンヘソク)牧師と話していました。先



生の運転で、三重県の津豊ヶ丘教会に牧師会に参加したのですが、他の先生にではなく私に前に乗ってくださいといわれたので、たまたま先生と1時間以上、行きも帰りも、ずっと話すことになりました(先生とは、最近、滋賀県の牧師会でも、二人で、水郷を散歩しながら、雨の中、東屋でじっくりと人生や、牧会について深く話すことが多いのですが・・)。

韓国で生まれた先生が、なぜ、オーストラリアに行き、今も、娘さん達がオーストラリアにいて、そして、今、どうして栄聖書教会なのか・・3年過ごして、どうなのか・・そして話は、先生の生い立ちの話になり、私の聞き違いかも知れませんが、父上が60代の初めに召され、半地下のようなところに住んで、母が必死に自分たち3人の兄弟を育ててくれた。父の死には立ち会えなかった事が心残りで、今度こそ、母が死ぬときは、牧師を中断しても、母の下にいたい・・これから、残された生涯をどう過ごすのか・・まさに人生全部を語り尽くしたのではないかしらと思うほどに、色々話していたのです。

そして、先生の人生のその中心に、先生の母上がいたこと、母親が、先生の生き方や、物の考え方を決める重要な要(かなめ)であることをつくづく、しかし、ユーモアを交えながら語ってくれたのです。とにかく、良く祈る人だと言うのです。にわかには理解しがたかったのですが、母は、毎日、教会に泊まるというのです。それは、毎日、朝四時から始まる礼拝に備えて、子供たちと食事をして後片付けを終えると、毎日、11時に教会に行く。そして、そこで寝て、朝の礼拝が終わると、早朝に家に戻って、子供たちを送り出す。私は、聞きました。韓国の教会は、早天祈祷会で知られていますが、韓国の兄弟姉妹はみんなそんな感じなのですか？と。先生は、明確に、そんな人、ごく一部です。あまりいないと・・そして、内の母がそういう人だと。今年、83才？、今も、家から教会まで、私たちの足なら10分のところを、年をとったので、一時間かけて、毎日(今は、毎日ではない？と言ったか・・)通っているのですと。

先生は、繰り返し、だからといって、母が立派なクリスチャンかという、違うなと思うところもたくさんある、理想的なクリスチャンといえるかはわからない。弱さもあると言われた。先生としても、たまに韓国に帰って、礼拝と一緒にいることがあるが、先生が土曜日に、テレビを見て、ゲラゲラ笑ってしようものなら、露骨にイヤな顔をする、牧師が、礼拝の前の日に、祈りもせずに、テレビを見ていいのか？とでも言うようになるですと、久しぶりに一信徒として礼拝に出て、礼拝の後は、一緒に楽しく食事をしようという、イヤな顔をされる。そんな礼拝の日の過ごし方でいいのか？と。たまの家族揃っての食事だから、良い物を食べようと、すこしいレストランに入ると、ここは嫌だと言う。リラックス出来ないですね・・と笑いながら話す。そして、「でも」というのです。

まさにそんな礼拝と祈りの人生、それを見せてくれたのは、私にとって宝だと思っているんだと。貧しくて、財産はないけれど、それこそ宝だ。

今日の箇所、ふさわしい礼拝とは何か、それは、神が喜んで下さる聖なる、そして、生きたささげものをする、すなわち、生き方が、そのまま礼拝であるような、礼拝が、第一で、礼拝から始まる、礼拝の一週間、月曜日の礼拝の歩み、火曜日の礼拝の歩み、

賛美の歩み、そうした、礼拝の生活が、それだと教えられたのだと思います。

もちろん、それが、全先生が、それは理想とは言わない、完全だと言わないというように、朝 4 時の礼拝というばかりではないでしょう。パウロが、あなたがたにお勧めします、礼拝から一週間をはじめてみてください。礼拝をまずは、大事にするところから初めてみてくださいと、それは命令ではなく、良いですよ、リーズナブルですよ、理にかなっていますよ、論より証拠、やってみてくださいというような、ハードルの低い、すぐに始められる心がけだと思います。しかし、それこそ、神によって創られた人間の幸せですという歩みだと教えられたのだと思います。

さて、この週も、この礼拝から、みなさんは始められた皆さんに、おめでとうございますと言いたいと思います。それは、実に、素晴らし事です。理にかなったことでした。月曜からの歩みも、この礼拝の気持ちを持って、私たちが、愚痴や悲しみではなく、賛美と感謝と、喜びをもって、かえって、献身の歩みをさせていただきたいと願います。